

初・山スキー雪が少ない！

北信 佐渡山・五地蔵山 山スキー

木下

【日時】 2007年1月13日(土)～14日(日)

【メンバー】 L木下、手嶋、佐藤、矢野、中村

今シーズンの初・山スキーを成人式の連休に計画したが、大荒れの天気で断念。なんと
しても山スキーに行きたい、と思っていたが今年の雪不足は深刻である。迷った結果、行きなれた「戸隠・大橋エリア」へ、勿論去年敗退した「五地蔵山」を計画に入れる。

ベテランと若手の混じった楽しいメンバーとなった。

1/13 曇り・時々小雪

去年大混雑していた大橋の駐車スペースには1台も車がない、まだ積雪が少ないせいだろうか。黒姫山の登山道から分かれた地点にBCを設営。今日は佐渡山へ、南尾根を登る。先行のパーティがあり、同じく佐渡山に向かっているのでラッセルなく進む。やはり雪は少なく灌木と笹がうるさいが登りには支障はない。登り始めた頃より「犬」がつ

いて来た、プレートを見ると「中社」の住所と「無垢」という名前が入っていた。我々の後・先になり佐渡山ピークまで付いてきた。ピークでは先行のパーティが到着しており、挨拶を交わす。彼らも滑降のルート迷っていたが往路を戻っていった。

さて、我々はどうしようか・・・南尾根の藪斜面を滑るのは気が向かない。南面に広がっている沢の源頭がパウダーで魅力的なのでここに飛び込み、藪がひどければ登り返し、良ければそのまま滑降と決める。中村・矢野がピットを掘り雪質確認、問題ない。リーダーの権利？で、はじめに滑り込む、予想通り良い雪質だ。「○」のサインを出す。あとは皆、雄叫びを上げて思い思いのシュプールを刻んだ。短い30度ほどの良い斜面であった。先ほどの「無垢」も新雪を掻き分けて駆け下りてきた、なんともうれしそうな顔、「これはスキー犬だ！」同行者を探していたのかしら・・・

沢形がはっきりしてくると雪が少なくそのままは無理、左岸に移り黒姫山の登山道に出ようトラバースしな



がら下る。どうも「無垢」はルートを知っているらしく我々のルートが決まると追い越して先導していく。途中シールをつけて登り返し、登山道に出た。藪のないカラマツ林を快適に滑ってBCに戻った。期待以上のパウダーとスキー犬と楽しんだ一日であった。夜は耕至さんの「ブッ込んじゃえ鍋」で盛り上がる。

1/14 小雪のち晴

昨晚は「無垢」も一緒に盛り上がったのだが、朝には姿を消していた。

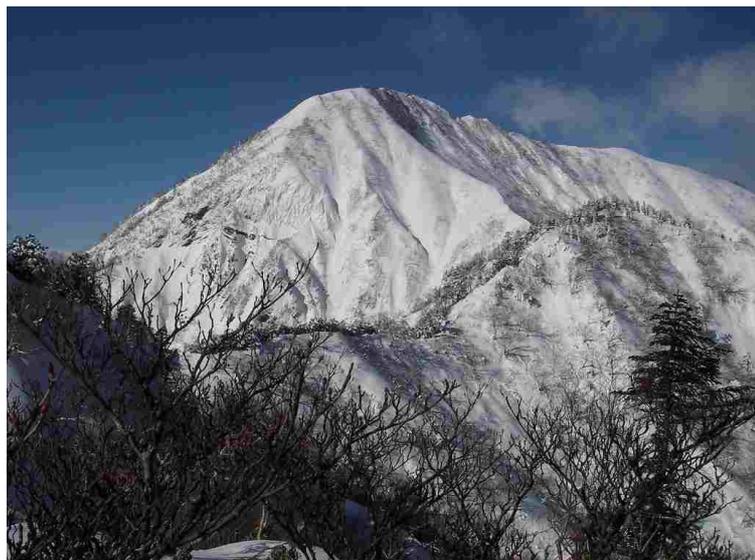
今日は五地藏山へ、佐渡山南尾根の隣の尾根を登り南コルへ出る。ここはぶな林の雰囲気の良いところである。ここからは北側を下り気味にトラバースしていくが、思ったより藪がなくスムーズに五地藏とのコルに出る。次第に青空は広がり白い山々が姿を現しだした、五地藏山もなかなか鋭角なピークでよい、やっぱり雪山は美しい。ルートはゆるい尾根より低灌木の生えた急斜面に変わる、膝上のラッセルとなるが矢野君ががんばり、ここを抜けピークに出る。素晴らしい展望だ、間近に大きな高妻山、そして遠くに北アの山並みが見える。今日は我々だけのピークとなった。

さて待望の滑降、しばらくは尾根沿いに滑るが、パウダーが気持ちよい、手嶋さんの軽快なウェーデルン、耕至さんの豪快な滑り、ダイナミックな矢野君、優美なテレマークな中村君と皆楽しんでいる。尾根上の藪が濃くなる付近より北東斜面に入る、ここは40度くらいのところもあり雪質によっては要注意であろうか。もう少し藪が埋まっていれば最高であったろうと思うが、十分に楽しめた。氷沢川の源流に滑り降り、静かな林間をシールを張って歩く。うまくスノーブリッジを見つけ氷沢川を渡り、少しの登り返しで、南コルに戻った。ここからは藪をかわし細いルートをすり抜け、BCに戻る。

ビールで乾杯！荷物をまとめて大橋へ、トレールが付いており約15分で到着。終了となった。藪スキーながらシーズン初めの山スキーを楽しみました。

【行程】

- 1/13 大橋 (8:30) -1300m・
BC (9:20-10:00) -南尾
根-佐渡山 (12:00-20)
-南の沢 (仮称) 滑降-
BC (14:45)
- 1/14 BC (7:00) -南のコル
(8:10) -五地藏のコル
(8:55) -五地藏山
(11:15-12:00) -氷沢
川 (13:15) -南のコル
(13:50-14:10) -BC
(14:30-15:00) -大橋
(15:15)



【地図】乙妻山